

## 來月のお節句に準備して

## 生きて來た雛祭

山田 徳兵衛

近年「雛祭」の素晴らしい隆盛……こいふこには色々な理由があるのでせうが、これを一口に申すなら「雛祭が生きて來た」こいふ事に起因するのだと考へます。

生きて來た……こいふ事は「子供の物になつた」こいふ事でもあるのです。

雛祭の起原……紫式部の頃の文獻を最も古きものとして其れを温ねるミ御みご、祓はらの行事ミ、婦女子の遊びミ二つが源流になつてゐてこれが何時か合流して今日の雛祭への流れになつたものですが、前者は勿論大人のものでありますし、後者の遊びミて幼き者のものでは無く寧ろ妙齡又はそ

れ以上の有閑女子たちの徒然の遊びであり、結婚への憧れの現れであつた様に考察されます。

徳川期に入つて彌々旺んになり女兒出生の年中行事として全國的になつた雛祭も、形式こそ今日のミ大差なき様になりましたが内容や扱ひ方に於てかなり大人のおとなのものであり、第一其意義が「親が子の爲めに飾る」こいふ事が勝ち過ぎて兎もすれば「こごも近よるべからず」の方へ傾いてゐた様に考へられます。

(此傾向は立派な雛飾りをする都人に最も強く、さ々やかな紙雛にお手製の草の餅を供へる片田舎の方が遙かに子供ミ雛祭ミの親しみが多かつた見られます)。

明治時代になつても其儘の延長であつたので雛祭も他の行事に壓おさされてやゝ飽かれ氣味の感でした。

こんな佳い行事を枯らすのは惜しい……こいふ運動が明治から大正の始めにかけて起つては居ましたが其れは所謂趣味家の連中の運動で、こもするに雛祭が其の人達によつて眞まの引倒しに遭ひ骨董化して好事家のものになつて仕舞ひそな氣運でした。

世の識者……こども黨がこれではいけぬに雛祭のこども化、フレッシュ化を叫ぶ聲が漸く高くなつて來た頃、折もよしアメリカから黒船ならぬ碧い眼のお人形の大群が「ニッポンのヒナマツリへ」このメッセージを持つて押寄せて來たのでした。

これによつて圖らずも教育家、趣味家及び人形製作者の握手と理解が色々な形に於て實現したのでした。

續いて、畏多いお話ですが宮中に於ける照宮様はじめ御三方内親王の御生誕は、わが雛祭の上に如何に光輝ひかりを新しき生命をお與へ下さつたか！

今や雛祭はまつたく全國の子供の最も親しみ深き行事に

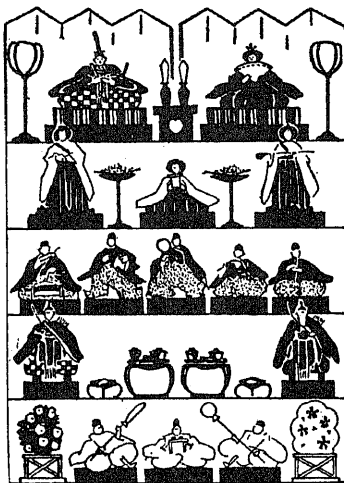
なつて學校に幼稚園に家庭に行はざるは無き程になつた。

そして一方教育家、趣味家、人形製作者の完全なる理解と協力によつて雛祭ははつらつはつらつと生きて來た。

子供等と共に息をして居るように……。

\*  
\*  
\*

今年も二月の聲と共に新聞に百貨店にお人形の國のデモンストレーションが賑かに行はれる事でありませう。



最近の傾向として雛壇の中心はあくまで本格的に飾る事が行はれて來ました。

それは、以前は飾る種類や位置も其土地々々によつて一

定してゐなかつたのが追々統一されて來て今日では殆んど全國的に方式が極つた爲めでせう。

さて其本格的の飾り方は………と申しますと

七段又は五段の壇を設へて、別圖の様な順位に十五人の雛人形を飾るのであります。

お道具も大略、圖の如く飾るのが普通であります。此れは壇の廣さ等によつて然るべく並べて差支はありません。

十五人のお人形の中に五人雛子だけが必ず童顔で、和やかな氣分を加へてゐるのは大變面白い點だと思ひます。そして此五人雛子が子供たちに一番呼びかけてゐます。

以前は樂人がくじんと稱して大人顔の雅樂の人形をよく飾りましたが、最近はこの童顔の愛らしさに壓せられて殆んど行はれなくなりました。

\* \* \*

雛壇の中心が益々統一され本格的の飾り方流行の反對に、それに飾り添へらるべき人形は段々種類が殖へ、そしてその取材が非常に廣く自由になつて來ました。

ももは高砂さか小町姫さか僅かな種類のみより無かつた

のが近頃は、舞樂、お能、狂言、舞踊などからお伽噺さては童踊までそれに取入れられて作られ、各々の趣味によつて自由に選ばれ飾られる様になりました。

此點は外人の稱する如く將に人形祭ドールズフェスティバルの感があります。即ち、中心は彌々本格的に、下壇に飾り添へるものは益益自由に………此れが最近の雛祭の傾向です。

\* \* \*

私の考へ、そして切望する處は、家庭の方々や、幼稚園、學校の先生方によつてもつゞく子供に親しみを持つ方法を雛祭の上に色々に考案していただきたいと存じます。

買つて來た人形ばかりでなくみんなで苦心合作した奇妙な雛人形も一つ位あつてよろしいでせう。碧い眼のお人形も勿論飾り添へて下さい。旅行土産の郷土人形も忘れずお仲間入りをさせてあげて下さい。

そのほか色々のよい趣向を此の雛祭の上に應用されていただきたい。

そして芭蕉翁の所謂、人形天皇を中心に多くの人形の和合し樂しむ様を現出し、その前で師と共に、親と共に遊ぶ

事としたり、子供等のよき印象は必ず一生去らぬものであらうと考へるに共に、この源古き雛祭を更らに／＼生かす事にならうと存じます。

\* \* \*

最後に、私の雛祭に對する持論を二つ追加して筆を擱く事にいたしました。

その一つは雛人形を買ひ求め又は贈られる時は必ず「箱書」をなさい……といふ事です。

雛人形やお道具の箱はみな白木で作られ箱書を待つてゐる様なものです。

その年月日は勿論、贈り先、贈り主その他を蓋の裏にでもこま／＼と記して置いたなら、將來さんなによい記念になることか！

雛人形なごは如何に古くなつたて捨て、仕舞ふなごといふ事は殆ど無い物ですから初の節句の赤ちゃん、よい娘さんになりマ、さんになつたら其の箱書を読まれてみんなにか深い思ひ出になり贈り主を懐しむ事でありませう。

もし學校や幼稚園で有つたなら、それを飾つて唱はれた

オカッパのお嬢さまが今はぎ、こそこの令夫人になつて居れる……なごといふほゝゑましくも興深い記念物になる事とせう。

從來、稀にのみより行はれてゐない此の「箱書」いふ事を私は特に提唱する次第であります。

次にもう一つは雛人形を仕舞はれる日の問題ですが、これも私の熱望する持論として「地久節を此の雛壇の前でお祝してからお仕舞下さい」と申す事です。

地久節が女子の節句から程近き三月六日にあられるといふ事は實に結構な事で（丁度天長節が男子の節句に間近き四月二十九日であられる事と共に）ぜひ雛祭を生かして此の佳節をお祝ひする事に致したいと存じます。

家庭なら一家中が雛壇の前で打揃つて國母陛下の御誕生日をお祝ひし、御健康を御祈りする事とし、睦じく些やかな御馳走なり茶菓なりを共にしたら實に良いと存じます。

まつたく此の事は、昭和の大御代に生れ合はせたお互ひ國民のみの特權を誇つてもよい事だと思ひて其の御實行を廣くおすゝめ申す次第であります。

(終)